

第 2 学年道徳学習指導案

日 時	平成 13 年 7 月 18 日 (水) 1 校時
学 校	水沢市立水沢中学校
学 級	2 年 A 組 (男子 20 名 女子 16 名 計 36 名)
指導者	谷 木 啓 恭

1、主題名 素晴らしさに出会って 内容項目 1 - (3)

2、資料名 「ネパールのビール」(東京書籍 明日をひらく)

3、主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目 1 - (3) には、「自主自立の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つようとする意欲を育てる。」とある。

私たちが生きていくとき、よく考え、ものごとを正しく判断し、自分自身で決断し、決めたことに最善を尽くしながら、最後までやり遂げていくことは大切である。また、他の人の最善を尽くして成し遂げようとする気持ちを理解して、自分の言動が与える影響を押し量ることも必要である。ものごとを誠実にやり遂げようとする心、他の人に誠意をもって接しようとする心、そういう心を育てていきたい。

日常生活において、自分で決めたことを確実にやり抜いていこうとするとき、その対象となる事柄に実現の価値を求め、心が高まってはじめて積極的になったり、粘り強くなったりすることができる。長い人生の中でその時にとった自分の行動や結果は、良くも悪くも最後には自分自身にかえってくるものである。心の弱い人間は、責任をとる苦しみから逃れようとして、ごまかしたり責任を他に転嫁したりするだろう。また、最善を尽くそうとする人の気持ちがわからず、疑うこともあるだろう。一方心の強い人間であれば、そのことを正面から受け止め、最善を尽くして乗り越えようと努力し、以後の自分の人生に役立てていこうとするだろう。また、最善を尽くそうとする人の気持ちもわかり、ともに精一杯生きていこうとするだろう。

人間は生まれてきた以上、人間らしい生き方を求めている。しかし、弱い存在でもあるから、楽なほう・安易なほうへ流れようとする。わがままも言う。よりよく生きようとする岐路にたたされたとき、そのような自己に潜む弱さを認識しながらも、それを乗り越えて、自分のできる最大限の努力を尽くして生きていけるように深く考えさせたい。

(2) 生徒について

この時期、生徒たちは自我も目覚め、自主的な言動が多く見られる。身体の成長にともなって心のはたらきも大きく変わり、批判力もついてくる。ときにはそれが、反抗心となったり、将来の生き方に関わる悩みになったりしていると考えられる。

2 年 A 組では、係活動や清掃活動などで、自分がなすべき行動を良く考え実行している生徒がいる中で、途中で投げ出してしまったり、友人や大人に責任を転嫁し自分の仕事からのがれたり、精一杯活動している友人の心を疑ったりする生徒も一部見られる。

そこで、本内容項目を深く考えさせながら、自他の在り方を追及させ、よりよい生活を志向させたい。

(3) 資料について

本資料は、ネパールへ撮影の仕事で出かけた作者とポーターとしてついたネパールの少年が中心となっている。作者の「ビールが飲みたい。」というつぶやきを聞いた少年が、多くのビールを買うために 4 つの山を徒歩で越え、三日三晩かかって、泥だらけになりよれよれになって買って来る。

少年の「ビールを買ってきてあげる。」の言葉に、最初は気遣っていた作者が、自分の要求や身勝手さを満たしてくれることに甘えてしまう。多くの本数を買ってきてもらうために、多くのお金(日本では何でもない金額でも、ネパールでは大金。)を渡し、少年は買いに出かける。幾日も帰ってこない少年に対し、作者は、少年のおかれている境遇や村人の話から疑ったり、けがをしたのではないかと心配をする。ビールが足りないからさらに遠くへ買いにいったこと、割れてしまったビールの破片、さしだした釣銭を見て、思わず作者は少年を抱きしめて涙を流す。

このネパールの少年チェトリの「作者の役に立ちたい。」という純粋な思いから、自分で決め、責任をもって行動した誠意溢れる行動を、作者の目を通した形で考えさせていきたい。まず、作者のつい出ってしまったわがまま、甘えを生徒につかませて自分たちの日常生活とだぶらせたい。また、少年に対して疑ったり心配している作者の姿を通して、なぜ心が揺れているのか深く考えさせ、そして、作者が思わず流した涙が、疑ってしまった自分の心の醜さと少年の誠意へのものだというところを捉えさせていきたい。

4、日常との関連

日頃学級生活において、友人の誠実な行為に対して心から応えられず、受け止めることができない場面を見かける。これは自分が他者へ心からはたらきかけたり、相手の心尽くしを知らなかったりという面があるからであろう。そこで本資料を通して、チェトリの誠実さやその誠実さを受け止め自己を深く内省するわたしの心境を考えさせていきたいと考える。

特に、S 君は、自分を受け入れて欲しいという欲求は強いが、他者を気づかたりする面が希薄な生徒である。本学習を通して、S 君が自らの在り方を深く考えてくれることを期待したい。

5、本時の展開

(1) ねらい

自主自律の精神を重んじ、常に誠実に生きようとする心情を養う。

(2) 展開

段 階	学 習 内 容	生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点		
導 入 7分	1 資料への導入を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 確かなことではないのに、友達を疑ったことはありませんか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ネパールについて説明する。 ・資料を範読する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人を疑うことの寂しさを考えることによって、日常のあまり考えないで行なっている生徒の行為をとらえさせ、資料への導入を図る。 ・日本とネパールの交通網や金銭のちがいについて説明し、その差を明確にしておく。 ・ネパールの写真等紙板書 		
展 開	中 心 資 料 に よ る 価 値 の 追 及	つ か む	2 チェトリに1回目ビールをたのんだときのわたしの気持ちを考える。 わたしは、どんな思いでチェトリにビールを頼んだのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・チェトリに買いに行かせたわたしにはどんな思いがあったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビールが飲みたくてしようがない。 ・本当に買ってきてくれるならうれしい。 ・買ってくるのは、たいへんなのに深く考えなかった。 ・気軽に。 ・チェトリの好意へ甘えている。 ・自分勝手。 ・お金で雇ったのだから当然だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求や身勝手を満たしてくれるチェトリの行為に甘えているわたしの気持ちをとらえさせると共に、根底に金さえ払えば良いと考えている先進国およびわたしの傲慢さをとらえさせ、生徒たちの日常を掘り起こす土台としたい。 ・紙板書(チェトリの表情-絵)
	考 え る	考 え る	3 チェトリが2回目にビールを買いに行き帰ってこないときのわたしの気持ちを考える。 チェトリが帰ってこない理由を、わたしはどのように考えただろう。 疑っているわたしをどう思うか。 <ul style="list-style-type: none"> ・歯ざしりするほど後悔したのはなぜだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お金をもって逃げたのではないかと疑っている。 ・けがをして、歩けないのではないかと心配している。 ・疑って当然だ。 ・何を言われようと信じてやるべきだ。 ・お金を持って逃げられたにしてもけがをしたとしても、あの子にとっては大変なことだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェトリのおかれている境遇やネパールの現状、村人の話からチェトリを疑う気持ちが深くなっていくわたしの心境をとらえさせるとともに、反面けがはないかと心配する気持ちをとらえさせる。 ・根底に傲慢さをもつがゆえ、チェトリを疑う気持ちはぬぐいきれないわたしの気持ちをうきぼりにしながら追及したい。 ・紙板書(チェトリの表情-絵)
	あ じ わ 握 う	あ じ わ 握 う	4 帰ってきたチェトリを抱きしめたときのわたしの気持ちを考える。 わたしは、どんな思いで、涙を流しながらチェトリを抱きしめていたのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> わたしとの約束のために3日間歩き通したチェトリをどう思いますか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・けががなくてよかった。 ・一生懸命になって買ってこようとしていたチェトリの心がわからずに、疑った自分が情けない。 ・もっとチェトリのことを信じてやればよかった。 ・自分勝手にも関わらず、たかがビールにそこまで誠意を尽くしてくれたチェトリに対して申し訳ない。 ・チェトリの誠実さに心が打たれたから。 ・責任感の強い人。・誠実な人。 ・決めたことは何があっても最後までやり遂げる人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビールが足りないから、さらに遠くまで買いに行ったチェトリのわたしに伝えようとするひたむきな心、割れたビール瓶の破片、釣銭をさしだす誠実さを感じれば感じるほど、自らの甘え、傲慢さが心の中でふくれ、自らの立脚していた土台が崩れていく姿をとらえさせたい。 ・チェトリの誠実さを考えさせながら、この少年のもつ責任感の強さにもふれさせたい。 ・紙板書(チェトリの表情-絵)
	終 末 3分	5 日本は、文化・産業が発展しているが、心の進歩は文化面の進歩とは無関係であり、そして文化の進歩以上に大切なものであることを知らせ、まとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・誠実な心は、いかなる場面でも大切に持っていなければならないものであることを知らせたい。 	